授業科目	理学療法課題研究ⅡB	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	自ら設定したテーマに基づき作成した論文を、わかりやすい形でパワーポイントにまとめ、学会発表を想定して発表を行う。				
到達目標	聞き手にわかりやすい発表資料が作成でき、プレゼンテーションを行えること、また根拠を持った質疑応答ができることを目標とする				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	論文の発表、内容等から総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	50	
その他	50	

履修上の留意事項	卒業後も学会発表などの機会があり、プレゼンテーション方法を工夫し、聞き手が興味をもつような発表を目指して取り組むこと。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
2	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
3	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
4	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
5	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
6	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
7	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
8	卒業研究発表	発表
9	卒業研究発表	発表
10	卒業研究発表	発表
11	卒業研究発表	発表
12	卒業研究発表	発表
13	卒業研究発表	発表
14	卒業研究発表	発表
15	卒業研究発表	発表

授業科目	理学療法課題研究ⅡB	担当教員 実務経験	有本邦洋 有：■　　無：□	道外医療施設にて理学療法士として6年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	情報科学ⅢB	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	情報リテラシーを遵守し、コンピューターやネットワークを活用した学習や、プレゼンテーションができる。 国家試験問題の傾向をつかみ、正答率を上げる。				
到達目標	国家試験問題の演習では正答率を前期は 70%、後期は 90%を目標とする。				
テキスト・参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 PT・OT 国家試験共通問題　頻出キーワード 1800				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	提出物の内容を点数化し、総合計を 100 点換算し、学則に則り評定する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	100	
	その他	0	

履修上の留意事項	提出期限を厳守すること。 提出期限を超過する場合は、事前に連絡をすること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	プレゼンテーションソフトの活用法	Power　Point　でのプレゼンテーションの仕方について確認し、卒業研究の発表（理学療法課題研究Ⅱ）につなげる。
	2	プレゼンテーションソフトの活用法	Power　Point　でのプレゼンテーションの仕方について確認し、卒業研究の発表（理学療法課題研究Ⅱ）につなげる。
	3	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	4	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	5	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	6	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	7	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	8	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	9	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	10	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	11	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	12	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	13	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	14	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	15	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。

授業科目	情報科学ⅢB	担当教員 実務経験	山内真帆 有：■　　無：□	道内の病院にて理学療法士として8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法管理学 A	担当教員	福嶋　篤		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	管理の理解と理学療法士の職場運営について学ぶ。				
到達目標	管理、管理的活動について理解し、理学療法業務における管理について説明できる。				
テキスト・参考図書等	参考図書≪15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト≫理学療法管理学（中山書店）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験により評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	理学療法士として職場に勤務してから活用する知識・技術について学習するので、どのように実践するかを意識して受講してほしい。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	管理の意義と目的	オリエンテーション、管理の意義と目的について学習する
2	組織管理と職業倫理	組織構成と医療関連倫理について学ぶ。
3	理学療法の法的根拠	各種法的根拠について学ぶ。
4	業務管理・職場管理とチーム医療	理学療法士の業務・職場管理と関連職種とのチーム医療について学習する。
5	理学療法管理（指示・治療と記録）	理学療法における指示の意味と診療記録について学ぶ。
6	情報管理（1）	リスクマネージメントと個人情報保護法について学ぶ。
7	情報管理（2）	EBM の原則、目的、手法について学ぶ。
8	医療報酬と介護報酬	医療報酬と介護報酬について学習する。
9	管理におけるコミュニケーション（1）	行動変容アプローチに関する概念、実践例について学習する。
10	管理におけるコミュニケーション（2）	対象者への関わり方のヒントとしてコーチングとティーチングについて学習する。
11	管理におけるコミュニケーション（3）	関係者との円滑な関係性構築に役立つヘルスコミュニケーションについて学ぶ。
12	管理におけるコミュニケーション（4）	表現の品質管理として校正作業などを経験して自主トレーニング用の配布物の在り方などについて学ぶ。
13	医療安全管理	医療管理と医療安全について学ぶ。（ヒューマンエラー含む）
14	臨床業務と自己研鑽	社会人・専門職としての自己研鑽について学習します。（キャリアラダーの作成など）
15	ハラスメント	種々のハラスメントやその対処法について学びます。

授業科目	理学療法管理学 A	担当教員 実務経験	福嶋篤 有：■　　無：□	理学療法士として市内病院、訪問看護ステーションに勤務。
対象年次・学期	4 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法管理学 B	担当教員	福嶋　篤		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	管理の理解と理学療法士の職場運営について学ぶ。				
到達目標	管理、管理的活動について理解し、理学療法業務における管理について説明できる。				
テキスト・参考図書等	参考図書≪15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト≫理学療法管理学（中山書店）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験により評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	理学療法士として職場に勤務してから活用する知識・技術について学習するので、どのように実践するかを意識して受講してほしい。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	管理の意義と目的	オリエンテーション・管理の意義と目的について学習する。
2	組織管理と職業倫理	組織構成と医療関連倫理について学ぶ。
3	理学療法の法的根拠	各種法的根拠について学ぶ。
4	業務管理・職場管理とチーム医療	理学療法士の業務・職場管理と関連職種とのチーム医療について学習する。
5	理学療法管理（指示・治療と記録）	理学療法における指示の意味と診療記録について学ぶ。
6	情報管理（1）	理学療法における指示の意味と診療記録について学ぶ。
7	情報管理（2）	EBM の原則、目的、手法について学ぶ。
8	医療報酬と介護報酬	医療報酬と介護報酬について学習する。
9	管理におけるコミュニケーション（1）	行動変容アプローチに関する概念、実践例について学習する。
10	管理におけるコミュニケーション（2）	対象者への関わり方のヒントとしてコーチングとティーチングについて学習する。
11	管理におけるコミュニケーション（3）	関係者との円滑な関係性構築に役立つヘルスコミュニケーションについて学ぶ。
12	管理におけるコミュニケーション（4）	表現の品質管理として校正作業などを経験して自主トレーニング用の配布物の在り方などについて学ぶ。
13	医療安全管理	医療管理と医療安全について学ぶ。（ヒューマンエラー含む）
14	臨床業務と自己研鑽	社会人・専門職としての自己研鑽について学習します。（キャリアラダーの作成など）
15	ハラスメント	種々のハラスメントやその対処法について学びます。

授業科目	理学療法管理学 B	担当教員 実務経験	福嶋篤 有：■　　無：□	理学療法士として市内病院、訪問看護ステーションに勤務。
対象年次・学期	4 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法特論 A	担当教員	元木　純		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	理学療法の臨床現場で用いられている治療法や最近のトピックスなどを学ぶ。				
到達目標	理学療法の臨床現場で用いられている治療法を理解できる。				
テキスト・参考図書等	配布資料				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	提出物により評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	100	
その他	0	

履修上の留意事項：実技のしやすい服装で臨むこと。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	テーピングの概念	テーピングの概念について学習する。
2	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。
3	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。
4	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。
5	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。
6	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。
7	レッドコードの概念	レッドコードの理論について学習する。
8	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。
9	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。
10	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。
11	PNF　総論・基本手技	ＰＮＦの理論と促通のパターンを理解し、基本的な手技を実習する。
12	PNF　総論・基本手技	ＰＮＦの理論と促通のパターンを理解し、基本的な手技を実習する。
13	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。
14	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。
15	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。
16	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。
17	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。
18	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。
19	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。
20	ウィメンズ・メンズヘルス	概要と基本手技を学ぶ。
21	ウィメンズ・メンズヘルス	概要と基本手技を学ぶ。

	22	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。
	23	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。

授業科目	理学療法特論 A	担当教員 実務経験	吉田智子 有：■　　無：□	
対象年次・学期	4 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法課題研究ⅠB(4 年)	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	3 年次に研究法として学習してきたものを、具体的に興味のあるテーマに基づき、各自論文を作成する。				
到達目標	課題を解決するために研究計画を立て研究を実施できること、論文の形式や規定を理解して論文を作成できることが目標となる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	論文の発表、内容等から総合的に評価する。
	レポート	50	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	50	

履修上の留意事項	論文の作成は卒業後も必要となる。また考え方を身につけることも重要である。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	2	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	3	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	4	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	5	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	6	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	7	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	8	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	9	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	10	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	11	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	12	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	13	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	14	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	15	論文作成	各自テーマに基づき論文作成

授業科目	理学療法課題研究ⅠB(4 年)	担当教員 実務経験	有本邦洋 有：■　　無：□	道外医療施設にて理学療法士として 6 年勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	地域理学療法学 A	担当教員	山内　真帆		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	地域リハビリテーションについて学び、その中での理学療法士の役割を確認する。				
到達目標	・地域リハビリテーションの意義について説明できる。 ・介護保険などの制度について説明できる。				
テキスト・参考図書等	ビジュアルレクチャー地域理学療法学第 3 版 参考図書：標準理学療法学専門分野　地域理学療法学、地域リハビリテーション論、地域リハビリテーション原論				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験により評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項

対象者の生活を考えて理学療法をすすめるためには、地域リハビリテーションの考え及び社会制度の理解が必要である。本講義で学んだことを臨床応用できるようになることを期待する。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	地域理学療法学とは	地域理学療法の概念・定義
2	地域理学療法の歴史	地域理学療法の歴史
3	生活で役立つ理学療法士の条件	他の訪問系在宅支援サービスおよび通所系サービスと理学療法士の関わり
4	生活機能を評価する	生活機能を評価する
5	介護保険	介護保険開始の歴史的背景と制度概略、利用に至るまでの流れと制度の本質

	6	地域理学療法の実践	介護３施設サービス、訪問リハビリテーションと理学療法
	7	生活を支えるということの理解	「生活を支える」ということの理解、（連携の重要性や他職種理解を含む）
	8	包括支援システムと理学療法	地域包括ケアシステムと理学療法士
	9	高齢者の姿勢とアプローチ方法について	高齢者の姿勢とアプローチ方法について
	10	ダンボールによる簡易背シート作成・あらためて地域理学療法とは	ダンボールによる簡易背シート作成・あらためて地域理学療法とは
	11	事例検討①	地域社会で生活する事例について①
	12	事例検討②	地域社会で生活する事例について②
	13	各種制度と理学療法との関係について①	各種制度に関する理学療法士の関わり
	14	各種制度と理学療法との関係について②	各種制度に関する理学療法士の実際業務について
	15	地域理学療法のまとめ	各種制度やサービス内容などについて

授業科目	地域理学療法学 A	担当教員 実務経験	山内真帆 有：■　　無：□	道内の病院にて理学療法士として 8 年以上勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急救命学 B	担当教員	三上　剛人		
対象年次・学期	4 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	臨床場面でのリスク管理の一環として、救急法について知識・理解を深めると共に、基本的手技も併せて経験する。				
到達目標	救急法について理解する。				
テキスト・参考図書等	配布資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	定期試験により評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	緊急時対応は突然必要になります。いざという場面で必要になる知識と技術であることを念頭に、授業を受けてください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	救急法概論	医師法と一般応急手当と基礎知識
	2	救急法概論	ビデオ、スライド使用
	3	各パートについて	出血、止血法、傷への対応
	4	各パートについて	三角巾の扱い方
	5	各パートについて	凍傷、火傷、咬傷、気道の確保
	6	各パートについて	頭のケガ、関電、電撃
	7	各パートについて	蘇生法（人工呼吸）
	8	各パートについて	蘇生法（心マッサージ）

授業科目	救急救命学 B	担当教員 実務経験	菩提寺浩 有：■　　無：□	消防署にて救急救命士として４０年以上従事
対象年次・学期	4 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法特論 B	担当教員	元木　純		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	理学療法の臨床現場で用いられている治療法や最近のトピックスなどを学ぶ。				
到達目標	理学療法の臨床現場で用いられている治療法を体験する。				
テキスト・参考図書等	配布資料				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	提出物により評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	100	
その他	0	

履修上の留意事項：実技のしやすい服装で臨むこと。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	テーピングの概念	テーピングの概念について学習する。
2	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。
3	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。
4	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。
5	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。
6	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。
7	レッドコードの概念	レッドコードの理論について学習する。
8	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。
9	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。
10	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。
11	PNF　総論・基本手技	ＰＮＦの理論と促通のパターンを理解し、基本的な手技を実習する。
12	PNF　総論・基本手技	ＰＮＦの理論と促通のパターンを理解し、基本的な手技を実習する。
13	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。
14	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。
15	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。
16	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。
17	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。
18	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。
19	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。
20	ウィメンズ・メンズヘルス	概要と基本手技を学ぶ。
21	ウィメンズ・メンズヘルス	概要と基本手技を学ぶ。

	22	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。
	23	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。

授業科目	理学療法特論 B	担当教員 実務経験	吉田智子 有：■　　無：□	
対象年次・学期	4 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急救命学 A	担当教員	三上　剛人		
対象年次・学期	4 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	臨床場面でのリスク管理の一環として、救急法について知識・理解を深めると共に、基本的手技も併せて経験する。				
到達目標	救急法について理解する。				
テキスト・参考図書等	配布資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	定期試験により評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	緊急時対応は突然必要になります。いざという場面で必要になる知識と技術であることを念頭に、授業を受けてください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	救急法概論	医師法と一般応急手当と基礎知識
	2	救急法概論	ビデオ、スライド使用
	3	各パートについて	出血、止血法、傷への対応
	4	各パートについて	三角巾の扱い方
	5	各パートについて	凍傷、火傷、咬傷、気道の確保
	6	各パートについて	頭のケガ、関電、電撃
	7	各パートについて	蘇生法（人工呼吸）
	8	各パートについて	蘇生法（心マッサージ）

授業科目	救急救命学 A	担当教員 実務経験	菩提寺浩 有：■　　無：□	消防署にて救急救命士として４０年以上従事
対象年次・学期	4 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	地域理学療法学 B	担当教員	山内　真帆		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	地域リハビリテーションについて学び、その中での理学療法士の役割を確認する。				
到達目標	・地域リハビリテーションの意義について説明できる。 ・介護保険などの制度について説明できる。				
テキスト・参考図書等	ビジュアルレクチャー地域理学療法学第 3 版 参考図書：標準理学療法学専門分野　地域理学療法学、地域リハビリテーション論、地域リハビリテーション原論				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験により評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項

対象者の生活を考えて理学療法をすすめるためには、地域リハビリテーションの考え及び社会制度の理解が必要である。本講義で学んだことを臨床応用できるようになることを期待する。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	地域理学療法学とは	地域理学療法の概念・定義
2	地域理学療法の歴史	地域理学療法の歴史
3	生活で役立つ理学療法士の条件	他の訪問系在宅支援サービスおよび通所系サービスと理学療法士の関わり
4	生活機能を評価する	生活機能を評価する
5	介護保険	介護保険開始の歴史的背景と制度概略、利用に至るまでの流れと制度の本質

	6	地域理学療法の実践	介護３施設サービス、訪問リハビリテーションと理学療法
	7	生活を支えるということの理解	「生活を支える」ということの理解、（連携の重要性や他職種理解を含む）
	8	包括支援システムと理学療法	地域包括ケアシステムと理学療法士
	9	高齢者の姿勢とアプローチ方法について	高齢者の姿勢とアプローチ方法について
	10	ダンボールによる簡易背シート作成・あらためて地域理学療法とは	ダンボールによる簡易背シート作成・あらためて地域理学療法とは
	11	事例検討①	地域社会で生活する事例について①
	12	事例検討②	地域社会で生活する事例について②
	13	各種制度と理学療法との関係について①	各種制度に関する理学療法士の関わり
	14	各種制度と理学療法との関係について②	各種制度に関する理学療法士の実際業務について
	15	地域理学療法のまとめ	各種制度やサービス内容などについて

授業科目	地域理学療法学 B	担当教員 実務経験	山内真帆 有：■　　無：□	道内の病院にて理学療法士として 8 年以上勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	健康増進科学 B	担当教員	武田　祐貴		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	健康増進に必要な運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。				
到達目標	適切な運動・栄養・休養を日常生活に効果的または安全に取り入れる方法について理解する。				
テキスト・参考図書等	予防理学療法学要論				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	定期試験により評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	健康寿命の延伸は社会の要請であり、理学療法士・作業療法士はこれに応えていく必要がある。そのために必要な運動や栄養学の視点と予防的取り組みの視点を得ること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	予防リハビリテーション概説	
	2	予防リハビリテーションの理解	
	3	予防リハビリテーションの実際	
	4	予防とは	
	5	認知症予防	
	6	精神疾患の予防	
	7	栄養学からみた予防リハビリテーション①	
	8	栄養学からみた予防リハビリテーション②	

授業科目	健康増進科学 B	担当教員 実務経験	横野裕行 有：■　　無：□	道内･外の病院で理学療法士として 8 年勤務
対象年次・学期	4 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	徒手関節治療学 B	担当教員	橋田　浩		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	マニュアルセラピー（徒手療法）の意義について学び、骨運動と関節運動の関係を理解する。運動機能障害が何によるか系統的に説明できるよう、モビライゼーションの基本的評価・治療手技について学習する。				
到達目標	1. 理学療法におけるマニュアルセラピー（徒手療法）の意義について説明できる。 2. 骨運動（生理的運動）と関節運動（副運動）の関係を理解し、評価・治療技術に適用できる。 3. 運動機能障害が、関節・筋あるいは神経の滑走障害に基づくものか、問題点を系統的に説明できる。 4. 関節および関節の動きを触知でき、モビライゼーションの基本的評価・治療手技を施行できる。				
テキスト・参考図書等	整形徒手理学療法 参考図書：上肢のマニュアルセラピー、脊柱・骨盤のマニュアルセラピー　改訂第 2 版、脊椎の分節的安定性のための運動療法　第 2 版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験により評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項：演習日には演習ができる服装で参加すること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	徒手療法の意義	理学療法における徒手療法の意義
2	歴史的背景	徒手療法の歴史的背景と諸家の治療概念
3	骨運動と副運動	骨運動と関節運動（副運動）および法則
4	用語の定義・解釈	徒手療法における専門用語の定義と解釈
5	関節モビライゼーション	関節モビライゼーションの治療原理
6	効果、適用・禁忌	関節モビライゼーションの効果と適用・禁忌
7	上肢関節手技	上肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習
8	下肢関節手技	下肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習
9	脊柱の運動学	頚椎・胸椎・腰椎の関節運動学
10	仙腸関節の動きと障害	仙腸関節の形態、動きおよび障害
11	ニューロダイナミックス	末梢神経の滑走障害の評価と治療法
12	腰椎・体幹のスタビリティ	腰椎・体幹のスタビリティの理論的背景とエクササイズへの応用
13	脊柱・骨盤の触診	頚椎・胸椎・腰椎関節および骨盤について触診の実習
14	脊椎関節手技	頚椎・胸椎関節に対するモビライゼーション手技の実習
15	仙腸関節手技	仙腸関節の障害の評価と基本的治療手技

授業科目	徒手関節治療学 B	担当教員 実務経験	橋田浩 有：■　　無：□	道外の病院にて理学療法士として 10 年以上勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法演習ⅡA	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	国家試験全員合格を目指すため、専門分野について学習する。				
到達目標	模擬試験で学習の定着状況を確認しながら、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	PT・OT 国家試験共通問題　頻出キーワード 1800 必修ポイント専門基礎分野基礎医学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	演習課題の内容により評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	100	
	その他	0	

履修上の留意事項	国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習して知識を定着させること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	2	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	3	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	4	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	5	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	6	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	7	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	8	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	9	運動療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	10	運動療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	11	物理療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	12	物理療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	13	義肢装具学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	14	義肢装具学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	15	ADL	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	16	ADL	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	17	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	18	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	19	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	20	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	21	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	22	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	23	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。

	24	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	25	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	26	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	27	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	28	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	29	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	30	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	31	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	32	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	33	その他	模試など
	34	その他	模試など
	35	その他	模試など
	36	その他	模試など
	37	その他	模試など
	38	その他	模試など
	39	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	40	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	41	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	42	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	43	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	44	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	45	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。

授業科目	理学療法演習ⅡA	担当教員 実務経験	山内真帆 有：■　　無：□	道内の病院で理学療法士として8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	徒手関節治療学 A	担当教員	橋田　浩		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	マニュアルセラピー（徒手療法）の意義について学び、骨運動と関節運動の関係を理解する。運動機能障害が何によるか系統的に説明できるよう、モビライゼーションの基本的評価・治療手技について学習する。				
到達目標	1. 理学療法におけるマニュアルセラピー（徒手療法）の意義について説明できる。 2. 骨運動（生理的運動）と関節運動（副運動）の関係を理解し、評価・治療技術に適用できる。 3. 運動機能障害が、関節・筋あるいは神経の滑走障害に基づくものか、問題点を系統的に説明できる。 4. 関節および関節の動きを触知でき、モビライゼーションの基本的評価・治療手技を施行できる。				
テキスト・参考図書等	整形徒手理学療法 参考図書：上肢のマニュアルセラピー、脊柱・骨盤のマニュアルセラピー　改訂第 2 版、脊椎の分節的安定性のための運動療法　第 2 版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験により評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項：演習日には演習ができる服装で参加すること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	徒手療法の意義	理学療法における徒手療法の意義
2	歴史的背景	徒手療法の歴史的背景と諸家の治療概念
3	骨運動と副運動	骨運動と関節運動（副運動）および法則
4	用語の定義・解釈	徒手療法における専門用語の定義と解釈
5	関節モビライゼーション	関節モビライゼーションの治療原理
6	効果、適用・禁忌	関節モビライゼーションの効果と適用・禁忌
7	上肢関節手技	上肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習
8	下肢関節手技	下肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習
9	脊柱の運動学	頚椎・胸椎・腰椎の関節運動学
10	仙腸関節の動きと障害	仙腸関節の形態、動きおよび障害
11	ニューロダイナミックス	末梢神経の滑走障害の評価と治療法
12	腰椎・体幹のスタビリティ	腰椎・体幹のスタビリティの理論的背景とエクササイズへの応用
13	脊柱・骨盤の触診	頚椎・胸椎・腰椎関節および骨盤について触診の実習
14	脊椎関節手技	頚椎・胸椎関節に対するモビライゼーション手技の実習
15	仙腸関節手技	仙腸関節の障害の評価と基本的治療手技

授業科目	徒手関節治療学 A	担当教員 実務経験	橋田浩 有：■　　無：□	道外の病院にて理学療法士として 10 年以上勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床実習ⅢA	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	180 回	時間数	360 時間
授業目的	3 年次の総合臨床実習を踏まえ、実際の症例の状況や変化に応じた評価手技の応用性を養うとともに、理学療法の実施に際しても反応や変化を適確に把握し、ゴールやプログラムの変更を含む理学療法の進め方を理解する。次の点を最重要視する。1）理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、患者の反応や変化を具体的に把握する。、2）リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、それに即した行動を実践する。				
到達目標	a）症例に即した情報収集と検査・測定を迅速に実施できる。 b）収集したデータを統合・解釈し、問題点に対するゴールを立案する。 c）症例の社会的背景を踏まえ総合的な視点から考察する。 d）ゴールに対する理学療法プログラムを作成し実施する。 e）理学療法の基本的な原理を把握し、治療技術を実際に行い再評価を行うことで対象者の変化を把握し、その理由を考察する。				
テキスト・参考図書等	臨床実習教育の手引き　第 6 版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	臨床実習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	25	
その他	75	

履修上の留意事項	学生として最後の実習となります。悔いが残らないよう対象者第一に考え行動し、充実した実習にして下さい。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	【第 1-10 回】 1．実習前評価	実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。
2	【第 11-165 回】 2．臨床実習	各実習施設に赴き実習指導者の指示のもと、評価から治療までの一連の流れを臨床参加型の実習を通して学ぶ。1）理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、対象者の反応や変化を具体的に把握する。、2）リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、それに即した行動を実践して運営・管理について学ぶ。
3	【第 166－180 回】 3．実習後評価	実習後筆記・実技試験にて、実習の成果として、総合的知識及び基本的技能・態度がどれくらい身についたかを確認する。

授業科目	臨床実習ⅢA	担当教員 実務経験	有本　邦洋 有：■　　無：□	道外医療施設にて理学療法士として 6 年勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床実習ⅢB	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	180 回	時間数	360 時間
授業目的	3 年次の総合臨床実習を踏まえ、実際の症例の状況や変化に応じた評価手技の応用性を養うとともに、理学療法の実施に際しても反応や変化を適確に把握し、ゴールやプログラムの変更を含む理学療法の進め方を理解する。次の点を最重要視する。1）理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、患者の反応や変化を具体的に把握する。、2）リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、それに即した行動を実践する。				
到達目標	a）症例に即した情報収集と検査・測定を迅速に実施できる。 b）収集したデータを統合・解釈し、問題点に対するゴールを立案する。 c）症例の社会的背景を踏まえ総合的な視点から考察する。 d）ゴールに対する理学療法プログラムを作成し実施する。 e）理学療法の基本的な原理を把握し、治療技術を実際に行い再評価を行うことで対象者の変化を把握し、その理由を考察する。				
テキスト・参考図書等	臨床実習教育の手引き　第 6 版 臨床実習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	臨床実習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	25	
その他	75	

履修上の留意事項	学生として最後の実習となります。悔いが残らないよう対象者第一に考え行動し、充実した実習にして下さい。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	【第 1-10 回】 1．実習前評価	実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。
2	【第 11-165 回】 2．臨床実習	各実習施設に赴き実習指導者の指示のもと、評価から治療までの一連の流れを臨床参加型の実習を通して学ぶ。1）理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、対象者の反応や変化を具体的に把握する。、2）リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、それに即した行動を実践して運営・管理について学ぶ。
3	【第 166－180 回】 3．実習後評価	実習後筆記・実技試験にて、実習の成果として、総合的知識及び基本的技能・態度がどれくらい身についたかを確認する。

授業科目	臨床実習ⅢB	担当教員 実務経験	有本　邦洋 有：■　　無：□	道外医療施設にて理学療法士として 6 年勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法課題研究ⅠA(3 年)	担当教員	元木　純		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	・1～3 年次に理学療法研究法Ⅰ～Ⅲで学習してきたことを基に、実践を通して研究の流れを理解する。 ・卒業研究として具体的に興味のあるテーマを設定し、研究計画を立てて実施する。				
到達目標	・興味あるテーマに関する先行研究について文献検索を行うことができる。 ・先行研究を基にリサーチクエスチョンを明確にして、目的・方法を立案し研究計画書を作成できる。 ・計画書に基づいて予備研究を行い、方法を見直してデータ収集ができる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	提出物（授業課題、研究計画書)、取り組み姿勢などから総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	60	
その他	40	

履修上の留意事項	担当教員との報告・連絡・相談を密に行い、主体的に取り組んでください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション、文献検索	卒業研究の流れについて。文献検索の方法の確認、実施。
2	文献抄読	グループ演習
3	研究計画書の作成 1	先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う
4	研究計画書の作成 2	先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う
5	研究計画書の作成 3	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う
6	研究計画書の作成 4	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う
7	予備研究	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする
8	予備研究	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする
9	データ収集	計画書に基づきデータ収集を行う
10	データ収集	計画書に基づきデータ収集を行う
11	データ収集	計画書に基づきデータ収集を行う
12	データ収集	計画書に基づきデータ収集を行う
13	データ収集	計画書に基づきデータ収集を行う
14	データ収集・データ解析	計画書に基づきデータ収集・データ解析を行う
15	データ収集・データ解析	計画書に基づきデータ収集・データ解析を行う

授業科目	理学療法課題研究ⅠA(3 年)	担当教員 実務経験	有本邦洋 有：■　　無：□	道外医療施設にて理学療法士として 6 年勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法演習ⅠB	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	国家試験全員合格を目指すため、共通分野について学習する。				
到達目標	〔前期〕解剖学・生理学・運動学を中心に学習し理解を深め、第 1 回卒業試験でより高い点数を獲得できる。 〔後期〕模擬試験で学習の定着状況を確認しながら、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 PT・OT 国家試験共通問題　頻出キーワード 1800				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	①　（1 回目点数）× 25％ ＋（2 回目点数）× 75％ ＝ 168 / 280 点以上が合格 A:224 点以上、B:196 点以上、C:168 点以上、168 点未満は再試験を実施する。 ②　再試験は、 168 / 280 点以上が合格
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習して知識を定着させること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	国家試験までの流れについて説明する。
	2	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	3	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	4	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	5	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	6	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	7	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	8	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	9	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	10	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	11	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	12	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	13	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	14	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	15	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	16	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	17	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	18	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	19	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	20	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	21	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	22	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	23	臨床医学総論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。

	24	臨床医学総論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	25	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	26	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	27	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	28	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	29	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	30	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	31	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	32	神経筋疾患	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	33	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	34	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	35	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	36	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	37	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	38	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	39	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	40	リハビリテーション概論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	41	その他	模試など
	42	その他	模試など
	43	その他	模試など
	44	その他	模試など
	45	その他	模試など

授業科目	理学療法演習ⅠB	担当教員 実務経験	山内真帆 有：■　　無：□	道内の病院で理学療法士として8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法課題研究ⅠB(3 年)	担当教員	元木　純		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	・1～3 年次に理学療法研究法Ⅰ～Ⅲで学習してきたことを基に、実践を通して研究の流れを理解する。 ・卒業研究として具体的に興味のあるテーマを設定し、研究計画を立てて実施する。				
到達目標	・興味あるテーマに関する先行研究について文献検索を行うことができる。 ・先行研究を基にリサーチクエスチョンを明確にして、目的・方法を立案し研究計画書を作成できる。 ・予備研究を行い方法を見直してデータ収集ができる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	提出物（授業課題、研究計画書）、取り組み姿勢などから総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	60	
その他	40	

履修上の留意事項	担当教員との報告・連絡・相談を密に行い、主体的に取り組んでください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション、文献検索	卒業研究の流れについて。文献検索の方法の確認、実施。
2	文献抄読	グループ演習
3	研究計画書の作成 1	先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う
4	研究計画書の作成 2	先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う
5	研究計画書の作成 3	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う
6	研究計画書の作成 4	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う
7	予備研究	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする
8	予備研究	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする
9	データ収集	計画書に基づきデータ収集を行う
10	データ収集	計画書に基づきデータ収集を行う
11	データ収集	計画書に基づきデータ収集を行う
12	データ収集	計画書に基づきデータ収集を行う
13	データ収集	計画書に基づきデータ収集を行う
14	データ収集・データ解析	計画書に基づきデータ収集・データ解析を行う
15	データ収集・データ解析	計画書に基づきデータ収集・データ解析を行う

授業科目	理学療法課題研究ⅠB(3 年)	担当教員 実務経験	有本邦洋 有：■　　無：□	道外医療施設にて理学療法士として 6 年勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法課題研究ⅡA	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	自ら設定したテーマに基づき作成した論文を、わかりやすい形でパワーポイントにまとめ、学会発表を想定して発表を行う。				
到達目標	聞き手にわかりやすい発表資料が作成でき、プレゼンテーションを行えること、また根拠を持った質疑応答ができることを目標とする				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	論文の発表、内容等から総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	50	
	その他	50	

履修上の留意事項	卒業後も学会発表などの機会があり、プレゼンテーション方法を工夫し、聞き手が興味をもつような発表を目指して取り組むこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
	2	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
	3	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
	4	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
	5	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
	6	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
	7	発表準備	論文に基づきパワーポイントを作成し、発表準備を行う
	8	卒業研究発表	発表
	9	卒業研究発表	発表
	10	卒業研究発表	発表
	11	卒業研究発表	発表
	12	卒業研究発表	発表
	13	卒業研究発表	発表
	14	卒業研究発表	発表
	15	卒業研究発表	発表

授業科目	理学療法課題研究ⅡA	担当教員 実務経験	有本邦洋 有：■　　無：□	道外医療施設にて理学療法士として6年勤務
対象年次・学期	4年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	情報科学ⅢA	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	情報リテラシーを遵守し、コンピューターやネットワークを活用した学習や、プレゼンテーションができる。 国家試験問題の傾向をつかみ、正答率を上げる。				
到達目標	国家試験問題の演習では正答率を前期は 70%、後期は 90%を目標とする。				
テキスト・参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 PT・OT 国家試験共通問題　頻出キーワード 1800				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	提出物の内容を点数化し、総合計を 100 点換算し、学則に則り評定する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	100	
	その他	0	

履修上の留意事項	提出期限を厳守すること。 提出期限を超過する場合は、事前に連絡をすること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	プレゼンテーションソフトの活用法	Power　Point　でのプレゼンテーションの仕方について確認し、卒業研究の発表（理学療法課題研究Ⅱ）につなげる。
	2	プレゼンテーションソフトの活用法	Power　Point　でのプレゼンテーションの仕方について確認し、卒業研究の発表（理学療法課題研究Ⅱ）につなげる。
	3	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	4	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	5	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	6	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	7	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	8	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	9	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	10	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	11	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	12	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	13	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	14	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。
	15	国家試験対策	「資格試験システム」を活用して国家試験の問題演習を実施する。

授業科目	情報科学ⅢA	担当教員 実務経験	山内真帆 有：■　　無：□	道内の病院にて理学療法士として8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法課題研究ⅠA(4 年)	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	3 年次に研究法として学習してきたものを、具体的に興味のあるテーマに基づき、各自論文を作成する。				
到達目標	課題を解決するために研究計画を立て研究を実施できること、論文の形式や規定を理解して論文を作成できることが目標となる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	論文の発表、内容等から総合的に評価する。
	レポート	50	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	50	

履修上の留意事項	論文の作成は卒業後も必要となる。また考え方を身につけることも重要である。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	2	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	3	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	4	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	5	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	6	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	7	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	8	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	9	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	10	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	11	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	12	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	13	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	14	論文作成	各自テーマに基づき論文作成
	15	論文作成	各自テーマに基づき論文作成

授業科目	理学療法課題研究ⅠA(4 年)	担当教員 実務経験	有本邦洋 有：■　　無：□	道外医療施設にて理学療法士として 6 年勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法演習ⅠA	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	国家試験全員合格を目指すため、各分野について学習する。				
到達目標	〔前期〕解剖学・生理学・運動学を中心に学習し理解を深め、第 1 回卒業試験でより高い点数を獲得できる。 〔後期〕模擬試験で学習の定着状況を確認しながら、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 PT・OT 国家試験共通問題　頻出キーワード 1800				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	①　（1 回目点数）× 25％ ＋（2 回目点数）× 75％ ＝ 168 / 280 点以上が合格 A:224 点以上、B:196 点以上、C:168 点以上、168 点未満は再試験を実施する。 ②　再試験は、 168 / 280 点以上が合格
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習して知識を定着させること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	国家試験までの流れについて説明する。
	2	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	3	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	4	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	5	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	6	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	7	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	8	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	9	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	10	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	11	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	12	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	13	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	14	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	15	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	16	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	17	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	18	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	19	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	20	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	21	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	22	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	23	臨床医学総論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。

	24	臨床医学総論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	25	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	26	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	27	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	28	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	29	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	30	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	31	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	32	神経筋疾患	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	33	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	34	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	35	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	36	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	37	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	38	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	39	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	40	リハビリテーション概論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	41	その他	模試など
	42	その他	模試など
	43	その他	模試など
	44	その他	模試など
	45	その他	模試など

授業科目	理学療法演習ＩＡ	担当教員 実務経験	山内真帆 有：■　　無：□	道内の病院で理学療法士として8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	健康増進科学 A	担当教員	武田　祐貴		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	健康増進に必要な運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。				
到達目標	適切な運動・栄養・休養を日常生活に効果的または安全に取り入れる方法について理解する。				
テキスト・参考図書等	無し 予防理学療法要論				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	定期試験により評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	健康寿命の延長は社会の要請であり、理学療法士・作業療法士はこれに応えていく役割がある。 そのために必要な運動や栄養学の視点と予防的取り組みの視点を得ること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	予防リハビリテーション概説	オリエンテーション 定義、領域、制度、研究法
	2	予防リハビリテーションの理解	
	3	予防リハビリテーションの実際	
	4	予防とは	
	5	認知症予防	
	6	精神疾患の予防	
	7	栄養学からみた予防リハビリテーション①	
	8	栄養学からみた予防リハビリテーション②	

授業科目	健康増進科学 A	担当教員 実務経験	池田保 有：■　　無：□	道内の病院にて作業療法士として 10 年勤務
対象年次・学期	4 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理学療法演習ⅡB	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	国家試験全員合格を目指すため、専門分野について学習する。				
到達目標	模擬試験で学習の定着状況を確認しながら、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	PT・OT 国家試験共通問題　頻出キーワード 1800 必修ポイント専門基礎分野基礎医学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	演習課題の内容により評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	100	
	その他	0	

履修上の留意事項	国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習して知識を定着させること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	2	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	3	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	4	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	5	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	6	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	7	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	8	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	9	運動療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	10	運動療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	11	物理療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	12	物理療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	13	義肢装具学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	14	義肢装具学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	15	ADL	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	16	ADL	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	17	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	18	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	19	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	20	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	21	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	22	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	23	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。

	24	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	25	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	26	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	27	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	28	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	29	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	30	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	31	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	32	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	33	その他	模試など
	34	その他	模試など
	35	その他	模試など
	36	その他	模試など
	37	その他	模試など
	38	その他	模試など
	39	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	40	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	41	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	42	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	43	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	44	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	45	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。

授業科目	理学療法演習ⅡB	担当教員 実務経験	山内真帆 有：■　　無：□	道内の病院で理学療法士として8年以上勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床実習IVA	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において実習を行い、地域での生活を支えるための理学療法の役割を学ぶ。				
到達目標	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において、地域での生活を支えるための理学療法の具体的な取り組みへの理解を深める。				
テキスト・参考図書等	臨床実習教育の手引き　第 5 版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	臨床実習指導者の評価、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	25	
	その他	75	

履修上の留意事項	総合臨床実習を終えた後の時期に位置付けられている実習です。この実習の目標である地域リハビリテーションについて、経験を通じて学んでください。地域に暮らす対象者との交流を通じて、生活について現実的な捉え方が出来るようになってください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	【第 1-45 回】 1．臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。多様化する保健・医療・福祉・介護等のニーズに対応するため、通所または訪問リハビリテーション場面における見学、体験を通して、理学療法士の役割を知る。さらに地域包括ケアシステムの強化に資するための知見を得るとともに利用者ニーズを把握し、理学療法の役割を確認する。

授業科目	臨床実習IVA	担当教員 実務経験	有本　邦洋 有：■　　無：□	道外医療施設にて理学療法士として 6 年勤務
対象年次・学期	4 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床実習ⅣB	担当教員	竹中　謙将		
対象年次・学期	4 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において実習を行い、地域での生活を支えるための理学療法の役割を学ぶ。				
到達目標	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において、地域での生活を支えるための理学療法の具体的な取り組みへの理解を深める。				
テキスト・参考図書等	臨床実習教育の手引き　第 5 版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	臨床実習指導者の評価、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	25	
	その他	75	

履修上の留意事項	総合臨床実習を終えた後の時期に位置付けられている実習です。この実習の目標である地域リハビリテーションについて、経験を通じて学んでください。地域に暮らす対象者との交流を通じて、生活について現実的な捉え方が出来るようになってください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	【第 1-45 回】 1．臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。多様化する保健・医療・福祉・介護等のニーズに対応するため、通所または訪問リハビリテーション場面における見学、体験を通して、理学療法士の役割を知る。さらに地域包括ケアシステムの強化に資するための知見を得るとともに利用者ニーズを把握し、理学療法の役割を確認する。

授業科目	臨床実習IVB	担当教員 実務経験	有本　邦洋 有：■　　無：□	道外医療施設にて理学療法士として 6 年勤務
対象年次・学期	4 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		